

2023年データ交換要件

はじめに

2023年のデータ交換要件（提供予定のデータ、データ提供に関する日程及び責任者を含む）は別添 A のとおりである。

漁獲努力量及びサイズデータは、2022年に提出したものと同一の書式で提出すること。メンバーがデータのフォーマットを変更する場合は、事務局が必要なデータロードのルーティンを確立することができるよう、事務局に対して新しい書式及び幾つかのテストデータを2023年1月31日までに提出するものとする。

別添 A に示した項目については、2022年暦年全体のデータ及びデータに変更があった年のデータを提出すること。過去のデータへの変更が2021年データの定期的更新を上回るものである場合又はそれよりも過去のデータのマイナーな変更を上回るものである場合は、次回のESC会合で討議されるまで、これらの変更データは使用されない（当該国について特段の合意がある場合を除く）。過去のデータを変更する場合（2021年データの定期更新を除く）は、変更内容を詳細に説明した文書を添付すること。

提供データの種類 ¹	データの提供者	提出期限	提供データに関する説明
CCSBT データ CD	事務局	2023 年 1 月 31 日	2022 年のデータ交換で提供されたデータ（漁獲努力量、サイズ別漁獲量、引き伸ばし漁獲量及び標識再捕）及び追加データをデータ CD に取り入れるためのデータの更新。これには、以下のものを含む。 <ul style="list-style-type: none"> 標識/再捕データ（事務局は、メンバーからの要請に応じて、2023 年における標識-再捕データの更新を提供する） SAG 9 で作成された修正シナリオ (S1L1) を用いた推定未報告漁獲量の更新
船団別総漁獲量	全メンバー及び協力的非加盟国	2023 年 4 月 30 日	船団別、漁具別の引き伸ばし総漁獲量（重量及び尾数）及び操業隻数。暦年及び割当年のデータを提出すること。
遊漁漁獲量	遊漁による漁獲がある全メンバー及び協力的非加盟国	2023 年 4 月 30 日	データが利用可能な場合、遊漁で漁獲された SBT の引き伸ばし総漁獲量（体重及び尾数）。完全な時系列の遊漁の推定漁獲量の提供（過去に提供されている場合は除く）。遊漁の推定漁獲量に不確実性があれば、不確実性に関する説明又は推定値を提供する。
SBT 輸入統計	日本	2023 年 4 月 30 日	国別、生鮮/冷凍、月別の日本への SBT の輸入重量。輸入統計は、非加盟国の漁獲量を推定するために使用される。
死亡枠 (RMA 及び SRP) の利用実績	全メンバー（及び事務局）	2023 年 4 月 30 日	2022 暦年に使用された死亡枠（キログラム）。RMA と SRP で区別すること。可能であれば、さらに月別、海区別で区別すること。
漁獲量及び漁獲努力量	全メンバー（及び事務局）	2023 年 4 月 23 日 (NZ) ² 2023 年 4 月 30 日（その他のメンバー及び事務局） 2023 年 7 月 31 日（インドネシア）	漁獲量（尾数及び重量）及び漁獲努力量は、操業ごと又は集計データとして提出する（ニュージーランドについては、同国がファインスケールの操業データを提供し、それを事務局が集計して回章する）。最大の集計レベルは、年、月、船団、漁具別の 5 度区画（はえ縄）で、表層漁業は 1 度区画とする。インドネシアは、操業ごと又は試験的科学オブザーバー計画による集計データのいずれかに基づく推定値を提供する。

¹ **MP/OM 用** と記載されているものについては、当該データが管理方式及びオペレーティング・モデルの両方に使用されていることを意味する。どちらか一つの項目が記載されている場合（例：**OM 用**）には、当該データがその項目にのみ使用されることを意味する。

² ニュージーランドの期日が他よりも早いのは、事務局が 4 月 30 日までにニュージーランドのファインスケールデータを処理し、他のメンバーに集計引き伸ばしデータを提供できるようにするためである。

提供データの種類 ¹	データの提供者	提出期限	提供データに関する説明
非保持漁獲量	全メンバー	2023年4月30日 (インドネシアを除く全てのメンバー) 2023年7月31日 (インドネシア)	下記の非保持漁獲量に関するデータは、各漁業につき、年、月、5度区画別に提供すること。 <ul style="list-style-type: none"> 放流されたとして報告された(又は観測された) SBT の尾数 放流された SBT について報告がなかった船及び時期を考慮した引き伸ばし非保持漁獲量 引き伸ばした後の放流 SBT の推定サイズ組成 放流後の魚の状態及び/又は生存状況の詳細 インドネシアは、操業ごとのデータ又は試験的科学オブザーバー計画の集計データのいずれかに基づく推定値を提供する。
RTMP 漁獲量及び努力量データ	日本	2023年4月30日	RTMP の漁獲量及び努力量データは、標準のログブックデータを提出する際と同じ書式で提供すること。
豪州、NZ の引き伸ばし漁獲量	オーストラリア、事務局	2023年4月30日	集計した引き伸ばし漁獲量データは、漁獲量及び漁獲努力量と同程度の解像度で提供すること。日本、韓国及び台湾は、引き伸ばし漁獲量及び漁獲努力量を提出するので、改めて提出する必要はない。ニュージーランドも、事務局が同国のファインスケールデータから引き伸ばし漁獲データを作成するので、提出する必要はない。
NZ の漁獲量に関する引き伸ばし鉤針数データ	事務局	2023年4月30日	ニュージーランドのファインスケールデータから事務局により作成され、事務局から NZ だけに提供される、NZ の引き伸ばし鉤針数データ。
オブザーバーから得られた体長組成データ	ニュージーランド	2023年4月30日	従来と同様のオブザーバーの生の体長組成データ。
引き伸ばし体長データ	オーストラリア、台湾、日本、ニュージーランド、韓国	2023年4月30日 (オーストラリア、台湾、日本) 2023年5月7日 (ニュージーランド) ³	引き伸ばし体長データは、年、月、船団、漁具別に、はえ縄は5度区画、その他の漁業は1度区画で集計し、提出すること ⁴ 。可能な限りの最小サイズクラス(1cm)で提出すること。必要な情報を示した書式は、CCSBT-ESC/0609/08の別紙Cに示されている
生の体長組成データ	南アフリカ	2023年4月30日	南アフリカのオブザーバー計画から得られる生の体長組成データ。

³ ニュージーランドは、事務局が4月30日に提供することとされている引き伸ばし漁獲量を必要とするため、さらに1週間が与えられている。

⁴ データは実行可能な限り、合意済みのCCSBTの代用原則を使って作成すること。引き伸ばし体長データの作成に使用した手法を完全に文書化することが重要である。

提供データの種類 ¹	データの提供者	提出期限	提供データに関する説明
RTMP 体長データ	日本	2023年4月30日	RTMP の体長データは、標準体長データと同じフォーマットで提出すること。
インドネシアはえ縄の SBT 年齢及びサイズ組成	オーストラリア、インドネシア	2023年4月30日	2021年7月から2022年6月までの産卵期の年齢及びサイズ組成の推定値（パーセント）を生成。2021 暦年の体長組成及び 2021 暦年の年齢組成も提出すること。 インドネシアは、港におけるマグロ・モニタリング・プログラムに基づく体長及び体重のサイズ組成を提供する。オーストラリアは、現在のデータ交換プロトコルに従って年齢組成データを提供する。
直接年齢査定データ	全メンバー（EUを除く）	2023年4月30日	耳石標本からの直接年齢推定値の更新（耳石の再解読が必要だったものについては修正推定値）。少なくとも2020 暦年のデータは提出すること（2003 年 ESC 報告書パラ 95 参照）。メンバーは、可能な場合は更に最新のデータを提供する。耳石情報の書式は、旗国、年、月、漁具コード、緯度、経度、位置、位置解像度コード ⁵ 、統計海区、体長、耳石 ID、推定年齢、年齢解読性コード ⁶ 、性別コード、コメントとなっている。 CSIRO との契約を通じて、事務局がインドネシアに関する直接年齢推定値を提出予定。
ひき縄調査指数	日本	2023年4月30日	2022/2023 年漁期（2023 年に終了）における異なるひき縄指数（ピストンライン指数（TRP）及びグリッドタイプひき縄指数（TRG））の推定値。不確実性にかかる推定値（例：CV）を含む。
標識回収サマリーデータ	事務局	2023年4月30日	月別、漁期ごとの標識放流数及び再捕数の更新。
遺伝子標識放流データ <u>OM</u> 及び <u>MP</u> 用	事務局	2023年4月30日	CSIRO との契約による遺伝子標識放流研究により得られた若齢魚資源量の推定値、放流数及び収穫時サンプル数、一致件数及び推定値の CV。標識放流データ（標識装着の日付、魚の体長等）、標識再捕データ（サンプル再捕の日付、体長等）、及び放流魚の組織サンプルとの遺伝的な適合の有無等）を含む標識再捕データ。
近縁遺伝子データ <u>OM</u> 及び <u>MP</u> 用	事務局	2023年4月30日	SNPs を用いて特定された SBT 親子ペア及び半きょうだいペアの更新データセット。これは CCSBT との契約に基づき CSIRO が実施する毎年 SBT 近縁遺伝子組織サンプリング、処理、近縁遺伝子特定及びインドネシア年齢査定プロジェクトの成果である。
年齢別漁獲量データ	オーストラリア、台湾、日本、事務局	2023年5月14日	各国は、自国のはえ縄漁業について、船団、5 度区画、月別の年齢別漁獲量データ（サイズ別漁獲量から得たもの）を提出すること。ニュージーランドの年齢別漁獲量については、事務局が CPUE 入力データ及び MP のための年齢別漁獲量で使用するルーチンを使って計算する。
旗国別・漁具別全世界 SBT 漁獲量	事務局	2023年5月22日	近年の科学委員会報告書に示されているものに準じた旗国別、漁区別の全世界 SBT 漁獲量。

⁵ M1=1 分、D1=1 度、D5=5 度

⁶ 耳石切片の解読性及び信頼性のスケール(0-5)の定義は、CCSBT 年齢査定マニュアルのとおり。

提供データの種類 ¹	データの提供者	提出期限	提供データに関する説明
豪州表層漁業の引き伸ばし年齢別漁獲量 OM用	オーストラリア	2023年5月24日 ⁷	過去に提出されたものと同じフォーマットで、2021年7月から2022年6月までのデータを提出すること。
インドネシア産卵場漁業の引き伸ばし年齢別漁獲量 OM用	事務局	2023年5月24日	CCSBTデータCDと同じ書式で、2021年7月から2022年6月までのデータを提供すること。
1952年から2022年までの各年の各漁業及びサブ漁業の総漁獲量 OM用	事務局	2023年5月31日	事務局は、上記の様々なデータセット及び合意済みの計算手法を用いて、オペレーティングモデルに必要な各漁業の総漁獲量及びサブ漁業の総漁獲量を算出する。
体長別漁獲量（2cm間隔）及び年齢別漁獲量の比率 OM用	事務局	2023年5月31日	事務局は、上記の様々な体長別及び年齢別漁獲量のデータセットを用いて、オペレーティング・モデルに必要な体長と年齢の比率を算出する（LL1、LL2、LL3、LL4－日本、インドネシア、表層漁業で分ける）。さらに事務局は、体長別漁獲量をサブ漁業（例：LL1内の異なる漁業）ごとに提出する。
全世界年齢別漁獲量	事務局	2023年5月31日	MPWS 4 報告書別紙7に従い、2022年の年齢別総漁獲量を算出する。ただし1及び2海区（LL4及びLL3）における日本の年齢別漁獲量は、例外的に、オペレーティングモデルの入力データとより良く対応するよう、暦年ベースではなく漁期ベースで算出する。
CPUE入力データ	事務局	2023年5月31日	CPUE解析に使用するための、年、月、5度区画別の漁獲量（比例的年齢査定を使った0歳から20歳+までの各年齢群の尾数）及び努力量（セット数、釣針数）のデータ ⁸
CPUEシリーズ OM及びMP用	日本	2023年6月15日 （可能であれば早めに） ⁹	CPUE解析に使用するための、年、月、5度区画別の漁獲量（比例的年齢査定を使った0歳から20歳+までの各年齢群の尾数）及び努力量（セット数、釣針数）のデータ

⁷6月1日より1週間早い期日としているのは、事務局が6月1日に提供する予定のデータセットにこれらのデータを取り入れる時間を十分に確保するためである。

⁸4月から9月までのSBT統計海区4-9における日本、オーストラリア合弁事業、ニュージーランド合弁事業の各船団のデータに限定。

提供データの種類 ¹	データの提供者	提出期限	提供データに関する説明
CPUE モニタリング及び品質保証シリーズ	オーストラリア、日本、台湾、韓国	2023年6月15日 (可能であれば早めに) ⁹	4歳+について、下記の5つのCPUEシリーズで提出すること。 <ul style="list-style-type: none"> • ノミナル (豪州) • B-Ratio proxy (W0.5)¹⁰ (日本) • Geostat proxy (W0.8)¹⁰ (日本) • 台湾標準化 CPUE (台湾) • 韓国標準化 CPUE (韓国)

⁹ 複雑な問題がなければ、CPUE 入力データが提供されてから2週間以内にCPUE シリーズを計算することが可能。したがって複雑な問題がない場合は、メンバーは6月15日以前にCPUE シリーズを提供するよう努力すること。

¹⁰ このシリーズは、西田及び辻 (1998年) の標準化モデルに基づく、全船舶データを使用するシリーズである。2016年以降はニュージーランド漁業における日本船籍用船のデータが無くなったことから、これらの指数は海区4と5、海区6と7をそれぞれ統合して計算すること。